

なす からすやま

No.134

Public Relations Magazine of Nasukarasuyama City



特集 ふれあいの里ってしってっけ?...	2
第5回介護予防大会.....	6
平成28年度全国学力・学習状況調査の結果...	8
秋の運動会盛んに.....	11
市文化祭.....	12
収穫の秋迎えました!.....	14
まちのわだい.....	16
インフォメーション.....	18
シリーズ 烏山高校ってこんなところ!...	20

2016
11
November



大・大・大収穫(10月6日、七合保育園サツマイモ掘りより)

本市の高齢化率は、33・1%と、栃木県平均の26・0%を大きく上回り、県内でも4位と高齢化が進んでいる状況です(平成27年国勢調査人口より)。

また、本市の全世帯のうち、一人暮らしの高齢者世帯は1006世帯、高齢者夫婦の世帯は976世帯と、全体の約2割の世帯が高齢者だけで暮らしていることになり、地域での支援が重要になります(平成27年10月1日時点・民生委員児童委員による実態調査より)。

さらに、65歳以上の第1号被保険者及び要介護・要支援への認定率も上昇傾向にあります。それに伴い、居宅介護サービスや介護予防サービスなどの介護サービス利用額は年々増え、平成27年度は年間約21億円と、市が年間に歳出する金額の約2割を占めています。介護認定の主な原因としては、1位が「認知症」、2位が「脳血管疾患」となり、予防が重要課題となっています(平成23年9月～平成24年2月分)。

これらを踏まえ、市では、お年寄りが介護サービスに頼らず、いつまでも元気ではつらつとした生活が送れるように、様々な介護予防事業に取り組んでいます。

今月号では、その事業の中から、今、注目が集まっている「高齢者ふれあいの里(以下、「ふれあいの里」と表記)」の紹介をします。



◆特 集◆ ふれあいの里 ってしってっけ? ～介護予防で、はつらつ^{こう}元気な幸齢者へ～



5年間で市内11ヶ所に設置 地域で支え合うふれあいの里

高齢化が進むなかで、要介護状態にならないために介護予防や生きがいづくりを支援するため、市では、平成23年から「ふれあいの里」の設置を進め、現在までに、11ヶ所の立ち上げを支援しました。

このふれあいの里とは、地域に住むお年寄りや地域の人たちが交流することで社会的孤立の解消を図ったり、要介護状態となるのを予防したりするために、公民館などの身近な場所を「高齢者ふれあいの里」と位置づけて地域のサポーターのみなさんが、地域のお年寄りの支援を行っていくものです。

活動としては、楽しく体操をしたり、ゲームや歌をうたったりと、高齢者とともに過ごせる居場所づくりを中心に行っています。

平成27年度からは、歯科衛生士や薬剤師による口腔のケアに関する教室や薬の話、子育て世代との交流など新たな取り組みも始まりました。

また、ふれあいの里は、設置されている地域の高齢者が利用対象となりますが、向田ふれあいの里では、本市に住む高齢者が誰でも参加することのできる「地域の茶の間」や、「ふれあいレストラン」といった支援も行っています。



①閉じこもり予防や食事支援を目的とした「いきいきふれあいレストラン」②会話や食事などが楽しめる「地域の茶の間」③薬剤師による「お薬の話」（興野ふれあいの里より）。

ふれあいの里を紹介します！

■向田ふれあいの里（開所：平成23年11月）

毎週金曜日 午前9時30分～11時 旧向田小学校

■大木須ふれあいの里（開所：平成24年7月）

毎週火曜日 午前9時30分～11時 大木須集会所

■月次ふれあいの里（開所：平成24年11月）

毎週水曜日 午前9時30分～11時 月次コミュニティセンター

■横枕ふれあいの里（開所：平成25年7月）

毎週火曜日 午後1時30分～3時 横枕文化伝承センター

■大桶・白久ふれあいの里（開所：平成26年4月）

毎週月曜日 午前9時30分～11時 大桶上コミュニティセンター

■南大和久ふれあいの里（開所：平成26年9月）

毎週水曜日 午後1時30分～3時 南大和久公民館

■上川井ふれあいの里（開所：平成26年9月）

毎週火曜日 午前9時30分～11時 上川井公民館

■興野ふれあいの里（開所：平成26年10月）

毎週木曜日 午後9時30分～11時 興野集会所

■大金台ふれあいの里（開所：平成27年6月）

毎週木曜日 午前10時～11時30分 大金台公民館

■仲町ふれあいの里（開所：平成27年6月）

毎週水曜日 午後1時30分～3時 仲町公民館

■下川井上ふれあいの里（開所：平成27年9月）

毎週木曜日 午前9時30分～11時 和楽館

■どなたでも参加できます！

向田ふれあいの里では、どなたでも参加できる場として支援しています。

【地域の茶の間】誰かと話したい「行くところがない」「誰かとお茶や食事がしたい」と考えている方を対象に自由に過ごせる場所を提供しています。

日時：毎週火曜日 午前10時～午後2時

料金：100円程度／昼食代別

【いきいきふれあいレストラン】閉じこもりの予防や食事支援を目的としたレストランです。※事前の予約が必要です。

日時：毎週火・金曜日 午前11時30分～午後1時

料金：300円（65歳以上の市内在住の人）／500円（一般の人）

場所：向田2187（旧向田小学校）

問合せ：向田ふれあいの里 ☎0800-88847-2816

聞いてみました！ふれあいの里ってどんなところ？

ふれあいの里に参加すると生きるファイトがわいてくるような気がします。スタッフのみなさんが教えてくれる体操をすることもそうですが、なんといっても、地域の人と会話をすることが一番の楽しみです。以前は、両隣の家の人くらいしか会話がありませんでした。



南大和久ふれあいの里
利用者
雫ヨシノさん(80)

しかし、ふれあいの里に参加し、いろんな人と会話をすることで、今まで話したことがなかった人の良い所が見えてきて面白いと思います。それに、ふれあいをとおして、皆さんの笑顔が間近で見られることが私にとっての長生きする秘訣だと思います。

東京から那須烏山市に移り住んで20年が経ちました。大金台に住む人たちは、ほとんどが県外から来た人たちばかり。そのため、集まる機会もなければ、交流する機会もありません。私は、畑仕事や日曜大工…と趣味が多く、一人で過ごす時間がほとんどでした。けれど、今では、ふれあいの里に誘ってくれたスタッフのおかげで、友だちも増え、笑顔も増えました。参加しなかったら、ここに住む仲間たちと知り合うことはなかったと思います。この取り組みが市内でもっと増えたらいいのではないかと思います。



大金台ふれあいの里
利用者
八木沢良朗さん(82)

大桶・白久ふれあいの里には、13人のスタッフがいます。送迎や体操の指導を1回につき2人体制で担当しています。そのため、農業などをやりながら、無理をすることなく活動ができています。体操の指導をするにあたり、気をつけていることは、体力面です。お年



大桶・白久ふれあいの里
スタッフ

菊地正幸さん(62)

寄りが相手ということもあり、スピード、量など一人ひとりに合った体操を紹介できるよう心がけています。体操については、レパトリーを増やすために、新聞や雑誌、テレビなどで健康運動が取り上げられていたらそれを覚えて指導するようにしています。

老人会の活動が途絶えてから、この小さな地域にも関わらず、名前も顔も知らない人が多くいました。しかし、ふれあいの里を立ち上げてからは、今まで挨拶しなかった人でも立ち話が増え、まちが一気に明るくなったように思えます。また、大きな変化といえば、今年7月に仲町内で火災が起きたときには、炊き出しの連絡や手配などスムーズな声かけができました。今までだったら行動にも移さなかったはず…。ふれあいの里には、健康の維持という目的のほかに、地域のきずなが深まるということに気付かされました。



仲町ふれあいの里
スタッフ
丸山美和子さん(80)

ふれあいの里連絡協議会は、平成26年7月に設立されました。年に2回、市内11ヶ所あるふれあいの里のスタッフが集まり、情報交換をしたり、運動指導法を確認したりしています。

現在、ふれあいの里全体で抱えている問題としては、スタッフの後継者不足です。そこで多いのが、「毎週はでられないし…」という声。しかし、地域によっては、うまく分担をして、月に1回程度の担当で回しているところもあります。勤めている人はなかなか難しいですが、自分の生き甲斐づくりにもピッタリだと思います。仕事を退職した皆さんにスタッフとして参加してもらえら一度考えてもらいたいです。また、ふれあいの里ももっと増やすべきだと思っています。私も今は、運営する立場ですが、いつかは自分たちも利用することになるでしょう。今のうちから、お年寄りの憩いの場として地域に密着し、少しでも介護予防につながるような土台づくりができればいいと思います。



ふれあいの里連絡協議会
会長
駒場不二夫さん(65)

市ではふれあいの里の 立ち上げを応援します！

スタッフや利用者へのインタビューをとおして分かったふれあいの里の最大の魅力は、「誰かに会うこと」「何かに出会うこと」です。新しい友人ができた人や、明るい性格になった人、新たな趣味を見つけた人など、活動をとおして、この出会いが新たな自分を発見するきっかけとなっているようです。

しかし、現在、ふれあいの里は、市内11ヶ所、39ヶ所ある「いきいきサロン」と比べても少なく、認知度は低い状況です。そこで、市では、地域全体でお年寄りの介護予防の仕組みづくりを推進するために、平成31年までに20ヶ所の設置を目指し、住民の自主的な介護予防活動の立ち上げを応援しています。従来までは、いきいきサロンからふれあいの里へと活動を転換したケースが大半を占めていますが、最近では、仲町や大金台のように一から設置した地域もあります。

高齢化の加速化により、デイサービスなどの介護サービスの需要が高まり、供給不足が予測されている今、住民主体の介護予防活動の重要性が高まっています。未来を担う若い世代のため、土台作りをするのは今です。みなさんの地域でも立ち上げてみませんか。そして、ただ年を取るだけでなく、いつまでも幸せな生活を送るために、「幸福者」を目指しましょう。

よくある質問～ふれあいの里Q&A～

Q 1. 対象者は？

A 1. 介護予防事業の対象者は、原則的に地域の65歳以上の高齢者が対象です。
※65歳以上でも、スタッフとして活躍している人もいます。

Q 2. 身体を動かすのが苦手だけど大丈夫？

A 2. 大丈夫です。自分ができる範囲で身体を動かしましょう。

Q 3. 女の人が多いイメージ。男の人も参加していいの？

A 3. もちろんです。割合的に女性が多いですが、男性も積極的に参加してください。

Q 4. 実施頻度や時間は？

A 4. 週1回、1時間30分程度で行っています。
※利用日、利用時間帯は、地域と市の話し合いにより決定します。

Q 5. スタッフの体制は？

A 5. 地域でふれあいの里管理運営委員会を設立していただきます。実際に介護予防事業を運営するスタッフは、1回の開催あたり2～3人程度。そのほか送迎スタッフ（できれば男性1人）も確保が必要です。

Q 6. いきなりスタッフってできるの？

A 6. 事業開始をする前にスタッフ研修を行います。また、運営が安定するまで市でも応援にうかがいます。

Q 7. 運営主体は？予算は？

A 7. 市が、ふれあいの里管理運営委員会に事業を委託して行います。基本的にはボランティアでお願いをしていますが、市から委託料をお支払いします。（参加料は無料）

Q 8. 公民館などの改修が必要かもしれません。費用は出ますか？

A 8. 地域で運営委員会を設立し、実施することが決定すれば、公民館などの改修費用として市から補助金を交付します。トイレ改修やエアコン、テレビなどの準備品購入に使用することができます。

Q 9. 事業開始までのスケジュールは？

A 9. ①地域住民への説明会の開催 ②設立総会 ③公民館などの改修 ④スタッフ募集 ⑤スタッフ研修 ⑥事業開始 という流れで進めていきます。

Q 10. 自治会で「いきいきサロン」はやっているけど「ふれあいの里」にすると、どう変わるの？

A 10. 月1回から週1回の開催になり活動が増え、その分、認知症予防や運動効果も上がります。また、行政主導から地域主導になるため、地域に合った活動が可能になり、つながりも強化されます。Q 7やQ 8にあるように、市からの補助金や委託料等の支援を受けることができます。

■詳しい内容などは、健康福祉課 ☎0287-88-7115 までお問い合わせください。



第5回那須烏山市介護予防大会

認知症にやさしい地域づくりを

10月18日(火)、市と那須烏山市認知症連携推進協議会(杉浦啓太会長)による、「第5回那須烏山市介護予防大会」が烏山公民館で開かれ、地域住民132人が参加しました。

この大会は、認知症にやさしい地域づくりのために、一人ひとりの理解を深め連携を図るとともに、超高齢社会を迎える今、介護予防の必要性について考えようと毎年開かれているものです。

当日は、恒例となった栃木県消費生活リーダー連絡協議会烏山支部(萩原宣子代表)による寸劇「予防が一番、認知症!でもなつてもだいいじだよ、那須烏山市」が披露され



寸劇で認知症の症状などを紹介。

ました。劇では、軽度認知症の症状の例や、認知症の人を見かけたときの対処法、市が行う認知症に関する相談会や講座などが紹介されました。

続く講演会では、群馬大学名誉教授で認知症専門医の山口晴保教授を講師として招き、「認知症予防のライフスタイルと、なつても安心な地域づくり」と題した講演が行われました。山口教授は、認知症は高齢者の15%にもなることを踏まえ、「長生きをしたければ、認知症を受け入れましょう」と話し、食



予防法などを講演する山口教授。

事や運動による予防法などを紹介しました。参加者からは、「実践したい」という声も聞こえ、介護予防について考える良い機会となりました。

もし認知症になったら…?

お気軽にご相談ください

■オレンジカフェ認知症の方とご家族のために

日時: 毎月第4木曜日 午後2時~4時

場所: 市民カフェ35番館(中央2-8-32)

問合せ: 地域包括支援センター ☎0287-88-7115

■オレンジサロンほっと茶屋

日時: 毎月第2日曜日 午前10時~正午

場所: ほっとからすやまデイサービスセンター(野上1603-1)

問合せ: ☎0287-80-0515

■駅前広場「タッチ」よつばカフェ

日時: 毎月第2土曜日 午後2時~3時30分

場所: 駅前広場「タッチ」(南2-2-13)

問合せ: ☎0287-84-3376

小地域見守り活動研修会 災害支援から 地域の役割を学ぶ



実験を語る李さん。

市と市社会福祉協議会(丸山眞一会長)による、「小地域見守り研修会」が10月20日(木)、南那須公民館で開かれ、地域住民など100人が参加しました。

当日は、NPO法人にいがた災害ボランティアネットワーク事務局長の李仁鉄さんを講師に招き、「災害時にも活きる! 地域住民同士の見守り助け合い活動」についての講話が行われました。講話の中では、李さんが、平成16年に新潟県で起きた豪雨災害で被災し、ボランティアネットワークを立ち上げた実験などを交えながら、災害ボランティアと地域の役割や被災者のニーズを掴む大切さなどが紹介されました。

李さんは、「災害が起きてからでは遅い。普段の人脈や信頼感が災害時に役に立つ」と、災害時を想定し、平常時から地域ができる役割について参加者に訴えかけました。

那珂川の清流を守る会

清掃活動で那珂川をきれいに

那珂川の清流を守る会(松本國夫会長)では、10月16日(日)、那珂川に架かる大桶の八溝大橋付近で河川清掃を行いました。

また、同会では、年内に荒川の清掃も行おうほか、那珂川が面する茂木町や大田原市などでも活動を広げていく予定です。

地域おこし協力隊

10月から活動を開始しました！

6月から9月にかけて募集をしていた地域おこし協力隊3人が決定し、10月から活動を開始しました。今回、任命されたのは、榎本真紀子さん（埼玉県出身）、田中勇人さん（東京都出身）、市田久美子さん（北海道出身）です。

品の開発・販売、PRなど地域おこしの支援、農林水産業への従事、住民の生活支援など「地域協力活動」を行いながら、地域への定住・定着を図ります。

今回の同協力隊の任命期間は平成29年3月までの単年度を基本に最長3年まで延長可としています。今後、各種地域づくり団体等との連携を図りながら地域活性化に取り組んでいく予定です。

なお、3人の隊員の紹介や、今後の取り組みなどは「広報なすからすやま12月号」で紹介されます。

県知事選挙のお知らせ

【投票時間が午後7時までとなります】

◇告示日 11月3日(木・祝)

◇投開票日 11月20日(日)

◇投票時間 午前7時～午後7時

※今回の選挙から、本市の当日投票の終了時間が1時間早まります。

【期日前投票・不在者投票】

◇期間 11月4日(金)～19日(土)

◇時間 午前8時30分～午後8時

◇場所 期日前投票：烏山庁舎市民室・南那須庁舎市民ホール・不在者投票：烏山庁舎2階総務課

※期日前投票・不在者投票の時間は従来どおりです。

■問合 選挙管理委員会(総務課内)

☎0287-83-1117



左から、田中さん、市田さん、榎本さん。

那須烏山ジオパーク構想

養成講座でガイドを育成

市では、「那須烏山ジオパーク」の指定に向けて、那須烏山地域の地形・地質・化石などの自然や文化遺産を市民や観光客に解説するガイドを育成するため、「ジオガイド養成講座」を開いています。

1回目となった10月2日(日)は、「小学生向け地層観察ガイド」の講座が開かれ、地域住民20人が参加しました。当日は、曲畑や大里、志鳥、中山地内にある地層を観察。小学生に分かりやすく伝えることを基本に、県立博物館の学芸員からそれぞれの特徴や観察する上でのポイント、指導方法が説明され、参



地層を観察する参加者。

同会は、生活排水などで汚れる那珂川水系をきれいな川に戻し、後世に残していこうと今年3月に発足。会員は、南那須地区の漁協関係者や建築業協会、地域住民などで構成されています。清掃には、会員や地域住民など約80人が参加し、八溝大橋を中心に約2kmにわたり、空き缶やごみ拾いなどをしました。



八溝大橋付近で行われた清掃活動。

加者はガイドとしての知識を学びました。

今後は、11月23日(水・祝)に「滝駅周辺のコースガイド(龍門の滝など)」、12月17日(土)に「大金駅周辺のコースガイド(荒川の蛇行地形と化石産地など)」、1月14日(土)に「小溝駅周辺のコースガイド(荒川の崖の地層とブナなど)」が行われる予定です。時間や場所などの詳細は、今後発行する「広報お知らせ版」をご覧ください。本市の魅力を学び、ガイドにチャレンジしてみませんか。



英語で発表をする上級クラスの受講生。

なすから英語塾

後期コースがスタート

市民向け英会話教室「なすから英語塾」の後期コースが10月からスタートしました。

この英語塾は、「市英語ビレッジ構想」の一環で、烏山の山あげ行事がユネスコの無形文化遺産代表一覧への登録により、本市への外国人観光客の増加が予想されることから、世界中で公用語として使われる英語に多くの市民が関心を持ち、楽しく学びながら英会話を身に付けてもらおうと、昨年6月から始まったものです。

始まった当初は、「初級・中級クラス」のみでしたが、昨年後期コースからは「上級クラス」も加わり、延べ199人が受講しました。また、今年からは、さらに「観光ガイドクラス」も加わるなど、より実践的な会話が学べるという好評を博しています。

外国語指導員に スティーブン・ガンさん

今回の後期コースから、カナ

外国語指導員

スティーブン・ガンさん

出身：カナダ・エドモントン

年齢：26歳

趣味：音楽鑑賞・ギター・バスケットボール・武道

一言：頑張りますので、よろしくお願いします。



ダ出身のスティーブン・ガンさんが外国語指導員として英語塾の指導することになりました。スティーブンさんは、「英語が話せるようになることで、世界中の人と会話ができるようになる」とも素晴らしいことなので、受講生の皆さんに英語を分かりやすく教えたい」と意気込みを語ってくれました。



上：日本語で発表した7人の外国人。

下：フラダンスを披露した「レイ・プルメリア」。

国際交流協会「日本語発表会」 外国人7人が夢や想いを語る

市国際交流協会（東原民範会長）による「日本語発表会」が、10月16日（月）、烏山公民館で開かれ、地域住民など58人が訪れました。

この発表会は、本市に在住する外国人が「日本に来て思ったこと」や「将来の夢」などそれぞれが設定したテーマをもとに、日本語で発表するもので、今年で4回目になります。今回は、インドネシアやオーストラリ

ア、アメリカなど5か国7人が参加。ステージに上がり、練習した日本語を披露すると、観客から、発表者へ温かい拍手が贈られました。

その後行われたアトラクションでは、フラダンスチーム「レイ・プルメリア」によるフラダンスが披露され、優雅な音楽とダンスを楽しむ観客の姿が見られました。



小学6年生と中学3年生を対象に行われているサタデースクール。

学力調査の結果

小学6年生と中学3年生を対象に文部科学省による「全国学力・学習状況調査」が行われ、本市のすべての小・中学校が参加しました。この調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への指導や学習状況の改善等に役立てるために行われています。

学力調査については、国語と算数(数学)の2教科で、それぞれ、A問題(主として「知識」を問う問題)とB問題(主として「知識」を「活用」する力を問う問題)に分けて出題されました。

また、学習状況調査については、子どもたちに生活習慣や授業への取組などを質問紙によって尋ねる方法で実施されました。

この調査により把握できる学力や学習状況は一部分のため、すべてを測ることはできません。

本市の調査結果概要と傾向は次のとおりです。

小学校においては、各教科とも県の平均正答率をやや上回る結果でした。その中で、算数Aは、全国の平均正答率を上回る結果でした。小学校

の国語においては、「読むこと」の領域の問題が全国の平均正答率を上回りました。また、算数においては、「数と計算」と「量と測定」の領域の問題が高い正答率でした。

中学校においては、各教科とも全国及び県の平均正答率を下回る結果でした。国語Aの言葉の適切な使い方に関する問題の正答率が高く、全国とほぼ同程度でした。一方で、国語の「書くこと」「読むこと」や数学の「図形」「資料の活用」の領域の問題は、課題がみられました。

学習状況調査の結果

質問紙調査のため、「している」「及び」「どちらか」といえる「肯定的な回答」として集計し、全国と比較しました。ここでは、小・中学校で顕著な傾向を示す項目を紹介します。

※()内の数字は、全国との差(%)を「p」「ポイント」としています。また、プラスは「+」、マイナスは「-」とします。

(一) 学習習慣

①家では、学校の授業の復習をよくしている。
小学校：57.0%(+1.8p)

・中学校：64.8%(+13.8p)
②休日の学習時間が長い児童生徒の割合が高い。
・小学校：1時間以上60.0%(+3.0p)
・中学校：2時間以上49.1%(+9.0p)
③学習塾に通っている児童生徒の割合(通塾率)は、全国と比べ低い。

・小学校：30.3%(△15.7p)
・中学校：47.0%(△14.1p)
(二)生活習慣

①毎日同じ時刻に寝る児童生徒が多く、平日は寝る時刻が全国平均より早い。

・小学校：午後10時前64.1%(+14.5p)
・中学校：午後11時前45.6%(+8.7p)

②ゲーム、携帯電話に時間を費やす児童生徒が、全国よりやや少ない。

・小学校：ゲームを2時間以上25.2%(△4.5p)
・中学校：携帯電話を1時間以上44.3%(△3.5p)

(三)規範意識

①人が困っているときは、進んで助けている児童生徒が多い。

・小学校：91.9%(+7.3p)
・中学校：89.6%(+5.8p)

(四)地域や社会とのかわり

①地域の行事に積極的に参加している児童生徒が多い。

・小学校：75.2%(+7.3p)
・中学校：56.9%(+11.7p)

調査結果からわかること

学力調査と学習状況調査の相関から

○家で、自分で計画を立てて勉強(宿題や学習復習)をしている児童生徒ほど、正答率が高い。

○規則正しい生活ができていない児童生徒ほど、正答率が高い。(早寝早起き、朝食をとるなど)

○きまりや約束を守って生活している児童生徒ほど、正答率が高い。



スーパーティーチャー育成事業での研修会。

●平日、携帯電話やスマートフォンの使用時間が長い生徒は、全ての教科で正答率が低くなる傾向がある。

という結果が得られました。規則正しい生活習慣や学習時間の確保が学力向上に大切であると考えられます。

今年度の調査では、ゲームや携帯電話(スマートフォンを含む)に費やす時間が長い児童生徒の割合が、昨年度までより低くなる結果となりました。各校において「ノーメディアデー」を設定して、家庭学習を行ったり家族と話をしたりする時間を設けるようにした効果ではないかと思っています。



市教育委員会では、小・中学校において、学力向上に関して指導的立場に立つ教職員を育成するため「スーパーティーチャー育成事業」を今年度から実施し、授業の質的向上を目指しています。

また、この調査結果を踏まえ、「確かな学力」の育成を図るため、一層の取り組みの強化に努めます。

◇学校教育課 020277-8809222

鳥山城カントリークラブで

日本女子オープンゴルフ選手権

女子ゴルファーの日本一を決める「第49回日本女子オープンゴルフ選手権」が、9月29日(木)から10月2日(日)まで、鳥山城カントリークラブで開催されました。

選手権には、120人のプロやアマチュア選手が出場。鳥山城カントリークラブ所属のプロ・塩田亜飛美選手や、那珂川町出身のアマチュア・吉川桃選手も出場し、活躍を見せました。白熱したプレーを一目見ようと、4日間で2万5433人の観客が全国から詰め掛けました。大会前日の28日(水)には、練習ラウンドが無料公開され、848人のギャラリイが来場しました。

昨季賞金女王のイ・ボミ選手、前回王者のチョン・インジ選手、笠りつ子選手、菊地絵里香選手ら国内外で活躍するトッププレーヤーが出場した中、アマチュアの畑岡奈紗選手が通算4アンダーの280で初優勝し、アマチュアで初めて国内メジャー大会を制覇。同時に、17歳263日で史上最年少優勝記録も塗り替えました。

大会期間中、イベント広場では、様々な催しが開かれました。市でも、営業戦略推進部隊によるバッティングコーナーが設けられ、観光PRなど、魅力発信を行いました。また、市とJAなす南では、2位の掘琴音選手に、米2俵ととちぎ和牛が贈呈されました。

見事優勝を勝ち取った畑岡選手。



全国から大勢の観客が詰め掛けた会場。



営業戦略推進部隊によるバッティングコーナー。

那須烏山そば組合

桔梗寮でそば打ちを披露

市内6店舗のそば店で構成される那須烏山そば組合(長山登組合長)



そば打ちを間近で見学する子どもたち。

では、10月19日(木)、桔梗寮の子どもたちやスタッフに、約70食分のそばを振る舞いました。

これは、日頃お世話になっている地域に恩返しをしようと2年前から始まったもので、年に1回、組合員が市内の施設を訪問しています。訪問では、組合員によるそばの手打ちが披露され、その手際の良さに子どもたちは目が釘付けになっていました。

その後、子どもたちにそばが提供されると、「おいしい」とにっこりとした笑顔を見せていました。

チャリティゴルフで16万円を福祉活動へ寄付

10月2日(木)、風月カントリー倶楽部で「第2回東京風月堂チャリティゴルフ大会(東京風月堂銀座主催)」が開催され、その参加費の一部約16万円が市社会福祉協議会へ寄付されました。この寄付金は、今後、市の福祉活動の資金として運用されます。